



日本大学文理学部国文学科
日本語基礎演習2

はじめに

月9のヒロインからみる
方言ステレオタイプ

吹き替え作品での
関西弁の扱い方

漫画と実写化映画の方言

方言ステレオタイプの
反映の程度

漫画における
方言の扱われ方

少女漫画における
大阪方言

漫画における
広島弁キャラの
ステレオタイプとの比較

おわりに

検索

漫画と実写化映画の方言



4.3 個別分析1 (洞澤加奈)

4.3.1 作品について

舞台	大阪府
掲載雑誌名	集英社『別冊マーガレット』
映画公開年	2006年
映画脚本	鈴木おさむ
方言指導	山田篤麿

表1 ラブコン 作品詳細

4.3.2 キャラリスト

キャラクター	小泉リサ	大谷教士
属性	ヒロイン	ヒーロー
キャスト	藤澤恵麻	小池徹平

表2 キャラクターリスト

4.3.3 方言の使用率

	総発話数	方言セリフ	方言使用率
小泉リサ (漫画)	243	125	51.40%
大谷教士 (漫画)	279	170	60.90%
小泉リサ (映画)	133	57	42.90%
大谷教士 (映画)	183	71	38.80%

表3 ヒロインとヒーローの方言使用率

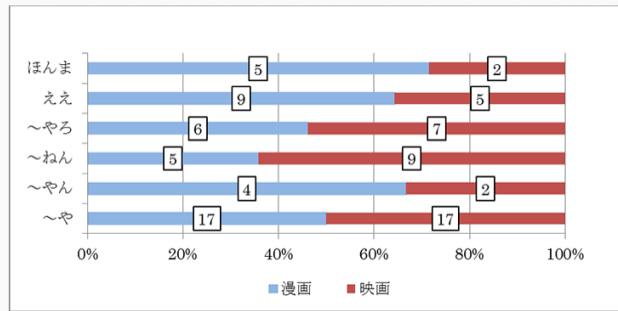


図1 小泉リサ方言使用回数

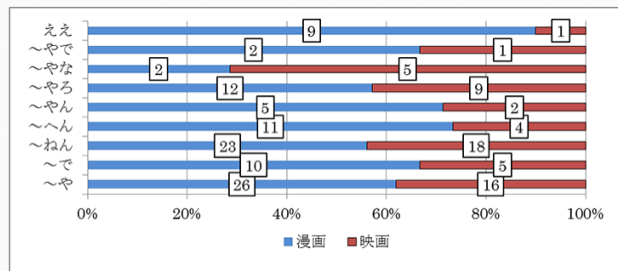


図2 大谷教士方言使用回数

4.3.4 方言ステレオタイプ

	おもしろい	かわいい	かっこいい	あたたかい	素朴	怖い	男らしい	女らしい
リサ (漫画)	○	△	○	○	×	○	△	×
リサ (映画)	○	△	×	○	△	×	△	△
教士 (漫画)	○	○	○	○	×	×	○	×
教士 (映画)	○	△	○	○	×	×	○	×

表4 方言ステレオタイプとの比較

4.3.5 方言がキャラクターに与える印象

大阪弁に対する一般的な印象として面白い、元気があ、あたたかいなどが挙げられる。上記の表に示した通り、『ラブ★コン』のヒロイン、ヒーローはこのステレオタイプに当てはまっている。『ラブ★コン』の実写映画と漫画には、2人の担任として登場する人物がいるが、この人物はそれぞれのメディアの中では役名も性格も全く別人である。漫画の方では大阪弁話者でステレオタイプに当てはまる面白くあたたかい人物であるが、映画の中では標準語話者であり、おどおどとした消極的な人物として描かれている。これも大阪弁に比べて標準語の方がなんとなく冷たいとか、関西人の方が面白いなどの一般的なイメージが影響しているのではないかと考えられる。

4.3.6 個別分析まとめ

ヒロインもヒーローも原作である漫画の発話数の方が多く、方言使用率も高かった。そのため漫画の中のキャラクターの方が大阪弁のステレオタイプにより近い結果になった。それに対して映画はアクセントやイントネーションによって大阪弁らしさを表しているため、方言使用率は低い結果になった。

→ 4.1 目的

→ 4.4 個別分析2 (宮崎結乃)

→ 4.5 個別分析3 (添田菜帆)